

大学生におけるメディア利用と語彙力の関係について

廣瀬 千愛

文章や本を読む機会や覚えた語を使う経験の少なさから、大学生の語彙力不足が指摘されている。大学生は、語彙力を高めることが期待されている読書時間は短いですが、インターネット利用が平日平均 4 時間以上、ソーシャルメディアを見る・書く時間が 1 時間程度とインターネット利用を通じて言葉のインプットやアウトプットを行っている可能性がある。

そこで、本研究では、大学生を対象として、読む対象と語彙をより広く捉え、メディアと語彙の関係を明らかにすることを目的とする。予備調査として、ChatGPT を使用して辞書語（辞書に掲載されている通用語）、新聞語（新聞に掲載されることの多い、社会生活に必要な基礎知識や時事知識に関する語）、新語（新しくつくられたり、外国語から新たに取入れられたりした語）を包括的に扱う語彙テストを開発し、本調査として、大学生 624 名を対象に、メディア利用に関する質問（149 項目）と語彙テスト（30 問）をオンライン調査で実施した。本調査で使用する語彙テストは、ChatGPT で作成した問題の妥当性を検証するために、各語彙の過去問と ChatGPT で作成した問題を使用した。調査では、調査協力者を 3 つのグループに分け、それぞれ問題の組み合わせが異なる語彙テストに回答させた。組み合わせは、A グループが辞書語・新聞語・新語の過去問(各 10 問)、B グループが辞書語・新聞語・新語の過去問(各 6 問)、辞書語の ChatGPT 作成問題(12 問)、C グループが辞書語・新聞語・新語の過去問(各 6 問)、新聞語・新語の ChatGPT 作成問題(各 6 問)である。

その結果、辞書語は情報収集時に文字・文章で読むことと弱い正の相関があり、日常的に文字や文章に触れているほど辞書語の語彙力が高さに関連があることが示された。新聞語は情報収集時に動画(映像)で見ることと弱い正の相関があり、動画(映像)で情報収集をすることと新聞語の語彙力が高さに関連があることが示された。この結果は、時事情報を得るメディアとしてテレビのニュースなどがよく使用されていることが要因として考えられる。また、新語ではさまざまな人々との交流と新語の高さに関して弱い正の相関も負の相関も見られるなど、複雑な関係性が示された。

以上から、辞書語と新聞語については、先行研究や一般的な考え方と一致する知見が得られ、前者は読書、後者はニュースを見ることと関係している可能性などが示唆された。

本研究は 1 時点の調査であり、語彙力とメディア利用の相関関係を明らかにすることができたが、今後は 2 時点以上の調査を行い、因果関係を明らかにすることが望まれる。

(指導教員 鈴木 佳苗)